

1章 ‘菊桜’のヒミツ

担当：小野 礼子、徳山 容

‘菊桜’という花を知っていますか？「菊」？「桜」？どっち？という人もいるでしょう。正解は「桜」です。でも、どこにでもある普通の桜ではありません。非常に変わっためずらしい桜です。この‘菊桜’をどうして残していかなければならないかを皆さんに知ってもらいたくてこの本を作りました。読み終える頃には「‘菊桜’大好き」と思ってくれたら、うれしいです。

1章では、「桜のプリンセス‘菊桜’のヒミツ」を紹介していきましょう。



わたしは
キクザクラちゃん。
‘菊桜’の魅力
を紹介していくよ！



桜のプリンセス「菊桜」のヒミツ ①

見た目がきれいでかわいい

花びらがいっぱいだよ。
ちなみに時期や場所、花
がつく位置によって花び
らの枚数が変わるよ！



「菊桜」には、人をひきつけて離さない強い魅力があります。まずは「見た目」です。日本で一番多い桜「染井吉野」は、花びらが5枚です。それに対し「菊桜」の花びらは100枚～300枚くらいです。たくさんの花びらが、ぎゅうぎゅう詰めにつまっている「花びらのポンポン」のような可憐な姿は、まさに「桜のプリンセス」です。

桜のプリンセス「菊桜」のヒミツ ②

花のつくり

「菊桜」はなぜポンポンのようにたくさんの花びらをつけて咲くことができるのでしょうか。その理由は2つあります。1つ目はたくさんのおしべが花びらに変化したからです。2つ目は花たくさん（花びらや葉のつくところ）が半球状になっていて面積が広いからです。

ほかにも「段咲き※」をする、中心部の色が濃いなどの特徴があります。複雑な「菊桜」のつくりを近づいて観察してみましょう。



花びらをとった状態の「菊桜」

※段咲き…ひとつ目の花の外側にもう一段おしべ、花びら、がくがついている。

桜のプリンセス‘菊桜’のヒミツ③

花色の変化が美しい

‘染井吉野’の花が散った4月上旬頃、‘菊桜’は冬芽からつぼみへ成長していきます。その後、4月中旬頃にかけて花が咲き、4月中旬～4月下旬頃に満開へ成長していきます。そして、4月下旬～5月上旬頃に花が落ちます。つぼみから花が落ちるまでの約1か月の長い間、下の写真のように色の変化や成長の様子を楽しめます。

場所によっては、初めから花色がうすいピンク色をしているところもあります。木の持つ遺伝子によるのか、生育している土壌によるのか、理由は分かっていません。

つぼみ①



散る前



つぼみ②



満開



つぼみから開花へ



開花



色の移り変わり

えんじ (濃紅色)

あざやかな赤 (紅色)

赤紫 (紅紫色)

ピンク (淡紅色)

うすいピンク (淡紅白色)

桜のプリンセス '菊桜' のヒミツ ④

花の散り方のフシギ



落ちた花を使って
キーホルダーを
つくれるよ



花びらが1枚ずつひらひらと散って
いくのが、桜の一般的なイメージで
はないでしょうか？

'菊桜' は異なります。花びらの詰
まったふわふわのポンポンの状態
で、地面に落下します。地面に敷き詰めら
れたたくさんの'菊桜'は、まるで花
のじゅうたんのようです。散った後も
美しいなんて、すてきですね。

桜のプリンセス '菊桜' のヒミツ ⑤

奇跡のストーリー

'菊桜' は、栽培品種という、人が価
値を見出して育ててきた桜のひとつで
す。誰かが保存育成しないと枯れてな
くなってしまいます。日本中が戦争で
苦しんでいた1945年、'菊桜'は、絶
体絶命の危機にあいます。それは、ど
んな危機だったのでしょうか？この冊
子のタイトルにある「佐藤清明」とは
誰のことでしょう？さあ、「佐藤清明」
と'菊桜'の奇跡のストーリーを次の2
章でご紹介しましょう。



次の章へ
いこう

佐藤 清明